

ICJLE日本語教育国際大会@BALIにおける BJG関連発表報告



1. 高等教育シンポジウム 東南アジアのビジネス日本語の研究と教育



伏線？東南アジアの先生方と持続的に議論

- ①2012 ICJLE NAGOYA
東南アジアの日本語教育に注目⇒パネル
- ②2015/8 ベトナム/ホーチミン: 東南アジア9か国の先生方が初めて一堂に会す「東南アジアの日本語教育の役割ーグローバル人材育成とつながるネットワーク」
- ③2015/10 シンガポール:
ビジネス日本語教育国際研究大会
東南アジア7か国の先生方のパネル
- ④2016/9 ICJLE BALI 高等教育パネル
「東南アジアのビジネス日本語の研究と教育」
⇒⑤2017/5 ハノイ?

背景: 東南アジアの高等教育のBJ

- 今後の東南アジアの高等教育における日本語教育⇒グローバル人材育成のためのビジネス日本語教育が重要
- 東南アジアにおけるビジネス日本語教育ニーズは学習者からも日本企業からも大変高い。しかし、ビジネス日本語教育の理念と内容が今まで十分に議論・共有されていないこと、それを理解した上でどのように授業運営を進めたらよいかについても議論・検討されてこなかったことから、ビジネス日本語教育を行いたくても着手できない場合が多い。

パネルの目的・方法

目的

- 東南アジアの高等教育におけるビジネス日本語教育の課題を把握
- BJ理念を検討・共有
- 授業内容と授業運営について検討

方法

- 事前調査: 大学で日本語教育を担当するパネリストとその卒業生

パネリスト

ディアンニ・リスダ: インドネシア教育大学
ロイ・レスミー: 王立プノンペン大学(カンボジア)
クマラゲル・ラマヤー: マラヤ工科大学(マレーシア)
トラン・トイ・トゥ・トウイ: ハノイ貿易大学(ベトナム)
モデレーター: 堀井恵子: 武蔵野大学
* 残念ながらクマラゲル先生は急用のため不在

* このほか、ミャンマー、ラオス、タイ、シンガポールからのキーパーソンによるポスター発表(予稿集参照)。

背景:アセアン経済共同体(ACE) 2015

日本企業が拡大を図る国

1. 中国
2. タイ
3. インドネシア
4. 米国
5. ベトナム
6. 台湾
7. シンガポール
12. マレーシア
13. フィリピン
14. ミャンマー

出典:JETRO

2014年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査



日本語学習者数 約400万人 国際交流基金(ジャパン)

表1-2-2 各国・<地域>の学習者数・機関数・教師数(2012年度学習者数単位)

2012年 順位	2009年 順位	国・<地域>	学習者(人)			機関(機関)			教師(人)		
			2012年	2009年	増減率 (%)	2012年	2009年	増減率 (%)	2012年	2009年	増減率 (%)
1	2	中国	1,046,490	827,171	26.5	1,800	1,708	5.4	16,752	15,613	7.3
2	3	インドネシア	872,411	716,353	21.8	3,946	1,988	18.0	4,538	4,089	11.0
3	1	韓国	840,187	964,014	▲12.8	3,914	3,799	3.0	17,817	6,577	170.9
4	4	オーストラリア	296,672	275,710	7.6	1,401	1,245	12.5	2,685	2,547	5.4
5	5	<台湾>	233,417	247,641	▲5.7	774	927	▲16.5	3,544	3,938	▲10.0
6	6	米国	155,939	141,244	10.4	1,440	1,206	20.1	4,270	3,541	20.6
7	7	タイ	129,616	78,802	64.5	195	377	23.3	1,387	1,240	11.9
8	8	ベトナム	46,762	44,272	5.6	180	176	2.3	1,528	1,565	▲2.4
9	11	マレーシア	33,077	22,856	44.7	196	124	58.1	509	388	31.2
10	12	フィリピン	32,418	22,362	45.0	177	156	13.5	556	422	31.8

日本語学習動機 (2012国際交流基金調査)

- 1位:日本語そのものへの興味(62.2%)
- 2位:日本語でのコミュニケーション(55.5%)
- 3位:マンガ・アニメ・J-POP等が好きだから(54.0%)
- 4位:歴史・文学等への関心(49.7%)
- 5位:将来の就職(42.3%)
- 6位:機関の方針(35.3%)
- 7位:日本への留学(34.0%)
- 8位:国際理解・異文化理解(32.4%)
- 9位:日本への観光旅行(28.6%)
- 10位:受験の準備(大学等)(26.6%)

ビジネス
日本語
ニーズ

方法:2つの事前調査

調査1

対象:東南アジアの大学で日本語を教えているパネリスト

項目:ビジネス日本語教育の現状と課題14項目

調査2

対象:日系企業に就職したパネリストの大学の卒業生
各5-10名

項目:4項目

Facesheet

1. 日本語使用場面
2. 在学時のビジネス日本語教育の有無
3. ビジネス日本語教育の必要な内容
4. 日本語を使って仕事をしていく上で、大切だと思うこと

結果

パネリストへの調査から;BJ教育の課題

- * 卒業生の日経企業就職率は大変高い 80-90%
- ①ビジネス日本語教育の定義、範囲、内容が明らかでない
- ②海外におけるビジネス日本語教育の国内との違い
- ③大学として学術と実用のバランスをどうとるか
- ④初/中級レベルの学習者へのビジネス日本語教育
- ⑤エンジニアの学習者への対応
- ⑥ビジネス経験のある教員の必要性

結果・卒業生のBJ課題

卒業生への調査

- ①接客時の待遇表現
- ②確認, ホウレンソウの必要性
- ③会議, プレゼンテーション
- ④通訳翻訳
- ⑤即戦力が求められる,

調査・問題提起から出たディスカッションテーマ

1. BJの理念・目的、内容
2. 海外と国内のBJ教育の違い
3. 学習者の日本語レベルとBJ・教材、教授法
4. BJ教師の資質

ディスカッション1 ビジネス日本語(以下BJ)教育の理念(目的)・内容

- ・ 調査1: ビジネス日本語の目的
パネリストの回答ベスト3

1. ビジネス場面での日本語コミュニケーション
2. ビジネスマナー
3. 待遇表現・配慮表現

ディスカッション1 ビジネス日本語(以下BJ)教育の理念(目的)・内容

堀井(2015)

- ・ ビジネス日本語教育はその対象によって
 - ①すでに就業している
 - ②これから就業する
 に分かれ、内容も変わる。
- ・ 本パネルでは②の国内外の**大学生(これから就業)**への**ビジネス日本語教育**を対象とする。

→大学教育として、社会に出ようとする学生の自己実現のサポート・人間形成

大学生を対象とするBJ教育の理念・目的

大学教育として、
「社会に出ようとする学生の**自己実現のサポート/人間形成の一環**」として、アカデミック・ジャパニーズ教育(論理的/批判的思考力など)に重ね、社会人基礎力を含む汎用的スキル、説明、交渉などができる**コミュニケーション力**、接触場面での**異文化調整力**、そして、他者と協働で**問題を発見し解決する行動力**を育む。

提案

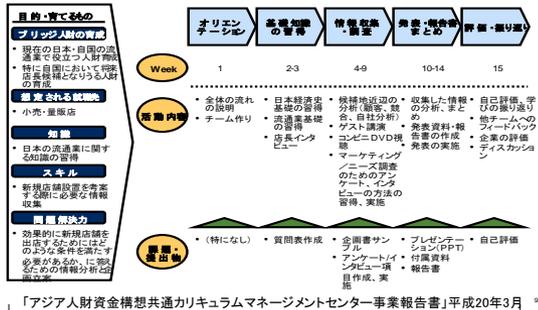
- ・ 日本語による問題発見解決能力
 - ・ 異文化調整能力
- の育成も必要

では、どうしたら??

PBL(プロジェクト型授業)の勧め

: **企画を立て、調査をし、プレゼンをする**

コンビニ新規店舗企画プロジェクト(流通業)の目的と流れ



PBLの例

3日間集中授業
日本語レベルN3

堀井(2014)

プロジェクト案

- 旅行会社(旅行者)への新企画
 - * みんなが知らなかった**バリ(地元)旅行**インバウンド企画
 - * 二度目の日本旅行⇒アウトバウンド企画
- 新商品企画

ビジネスチャンスはどこにでもあがる……

ディスカッション2
海外vs日本国内BJ教育比較

違う点:

- ・言語使用環境が身近でない
- ・企業文化理解が難しい
- ・インターンシップ先探しに苦労する
では、どうしたら??

⇒日系企業との連携
⇒インターネット(特に動画)の活用

ディスカッション3
日本語レベルとビジネス日本語教育

初級からのビジネス日本語教育は可能か?

- ①**ビジネス日本語基礎**: マニュアル対応できるもの
電話の受け答え、定型ビジネス文書
コールセンターの対応
→初級からでも可能
- ②**ビジネス日本語応用**: 交渉、会議、企画など
⇒上級レベルの日本語力が必要
⇒日本語力よりも思考力・行動力が重要な時も・

・BJ基礎:

- ①定型表現・知識: ビジネス語彙・ビジネスマナー
電話対応、Eメール、ビジネス文書など、マニュアル化されたもの⇒インターネットやテキストのマニュアル活用
電話対応: <http://www.jp-guide.net/businessmanner/tel/ukekata.html>
Eメール: <http://email.chottu>
ビジネス電話検定、ビジネス文書検定
- ②日本企業・業種・職種・就職活動についての知識⇒
* コールセンター、サービス業、販売などの接客場面
新入社員、アルバイトの範囲

たとえば・いろいろな業種を知る

- **メーカー:** 建設/食料品/繊維・服飾雑貨/化学/医薬/化粧品/機械/プラント・エンジニアリング/コンピュータ・通信/家電・AV機器/自動車
- **商社:** 総合商社/専門商社
- **金融:** 銀行や証券、生命保険
- **ソフトウェア・情報処理:** IT業界
- **百貨店・ストア・専門店:**
- **通信・マスコミ:** 出版・新聞
- **サービス:** 航空/ホテル/旅行/教育/官



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

日系企業の名前になれる

- 三菱商事・三井物産、住友商事・丸紅、伊藤忠商事
- 三菱東京UFJ銀行、
- ...
- 味の素(あじのもと)、エースコック...
- キヤノン・富士通...
- トヨタ・ヤマハ...
- 全日空
- KDDI・NTT



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

職種

- **事務職:** 総務・人事、経理・会計、営業事務、受付事務、企画・宣伝 など
- **営業職**
- **販売職**
- **専門職:** 開発・研究、技術、土木・建築技術、SE、編集・記者、アナウンサー、カウンセラー など



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

ディスカッション4

ビジネス日本語教師の資質

BJ教師にはビジネス経験が必要か？

- あるほうが良いが、ビジネス社会は変化が激しいので、最新でないと思う情報となってしまうこともある。
- ビジネス経験がなくても、ビジネス情報を勉強することで、可能になる部分がある。
- 海外の非母語話者の教師の場合、留学体験などで日本文化/日本の企業文化に触れる経験があるとよい。
- 日系企業社員との連携が重要。
- ステレオタイプに注意。
- **なぜ、日本人はいつも「すみません」というのか？**
- **なぜ、残業をするのか？**



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

卒業生調査から(BJシラバス)

日本語を使って仕事をしていく上で、大切だと思うこと

- 仕事を始める前に知っておいた方がよいこと
- 仕事をしながら身に付けること

確認をする⇒省略やあいまいな表現が多いので事前の確認、復唱練習は有効

- ホウレンソウ⇒あることは知っておく+OJT
- 会議・プレゼン⇒形式、流れ、語彙は事前に
- 通訳・翻訳⇒仕事をしながら



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

- 企業の求めるものに合わせる必要があるのか？
- 日本企業にも変わらなければいけない点があるのではないか？
- 双方で折り合いをつけることができれば



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

©MUSASHINO UNIVERSITY 2016

参考文献

- ・堀井恵子(2006)「アカデミック・ジャパニーズをふまえたビジネス・ジャパニーズ教育の意義と課題」『武蔵野大学文学部紀要』Vol.7,153-160
- ・堀井恵子(2010)「プロジェクト型ビジネス日本語教育の意義と課題」『武蔵野大学文学部紀要』第11号,pp.47-57
- ・堀井恵子(2011)「留学生に対するビジネス日本語教育のシラバス構築のための調査研究—ベトナムハノイの日系企業へのインタビューからの考察」『武蔵野大学文学部紀要』第12号,pp.74-91
- ・堀井恵子(2012)「留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育のシラバス構築のための調査研究3—タイバンコクの日系企業などへのインタビューからの考察」Global Communication、創刊号,pp.31-46
- ・堀井恵子(2014)「ベトナムの大学生対象のビジネス日本語教育におけるPBLポスター発表の有効性と課題」日本語教育国際研究大会予稿集
<https://icje2014.arts.unsw.edu.au/jp/program?id=903&t=ppid>
- ・堀井恵子(2015)「ビジネス日本語教育の課題再考—コース・デザインとPBL,シニアサポーター活用—」ビジネス日本語教育の展開と課題、pp.125-142、ココ出版

クロージング

ご清聴ありがとうございました。



PHOTO © SHUTTERSTOCK